

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

生徒一人一人の健康でたくましい身体、個性を生かした創造的な知性と技能、豊かな心情、強靱な意志、正しい社会連帯意識を養い自己実現を通して国家社会の進歩発展に貢献できる人間を育成する。

- (1) 自ら学び考える生徒（本気） (2) 豊かな心で思いやりのある生徒（勇気）
(3) 気力あふれるたくましい生徒（元気） (4) 進んで仕事をする生徒（根気）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

国内外の政治・経済・環境・情報など社会の急激な変化に伴い、学校や生徒を取り巻く環境の変化や価値観の多様化が進む中、学校教育は様々な課題を抱え、それらへの対応が求められている。このような中であって、学校は生徒に確かな学力を身に付けさせ、豊かな心を育むこと、ひいては主体的な判断力をもち、これからの社会をたくましく生き抜くことのできる力を身に付けさせることが最大の使命である。その使命を果たすためには、教職員の専門職としての資質を高めることが重要である。また、規範意識やコンプライアンス意識を高め、生徒、保護者、地域社会に信頼される教職員でなければならない。そして、学校、家庭、地域がそれぞれの教育力を発揮すると共に、一層連携を深め、地域とともにある学校づくりを推進する必要がある。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- 1 教育活動のねらいを明確にして分かる授業の実践と一人一人のよさを生かす活動の充実に努める。
2 生徒が自主的、主体的に活動する場の充実に努め、基本的な生活習慣、豊かな心の育成に努める。
○ 3 たくましい体、豊かな心の育成を目指して、自己の目標に向かって挑戦する活動の充実に努める。
4 温かく潤いのある環境づくりに努める。
○ 5 家庭や地域社会との連携に努め、信頼される学校、開かれた学校、地域学校園内の連携に努める。
6 教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切にして、専門職としての資質向上に努める。

〔陽東地域学校園教育ビジョン〕

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・ 学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進
- ・ 学校や地域の実態に即した教育計画の作成
- ・ 教育目標実現のための学年・学級目標の設定、具体策の明確化と実践
- ・ 自己の能力を最大限に発揮できる特別支援教育の推進
- ・ 専門職としての研修の推進

【学 習 指 導】

- ・ 一人一人に学ぶ楽しさを体得させる学習指導の工夫「豊かな学び創造プロジェクト」
- ・ 市の方針を踏まえた授業時数の確保（実質的指導時間の確保）
- ・ 学習目標の明確化と学習過程の工夫、達成状況の確認
- ・ 習熟度別学習の推進
- ・ 言語活動の充実による伝え合う力の育成
- ・ 国・県・市の学力調査等の円滑な実施と結果の活用
- ・ 自主的な学習習慣の定着を培う指導

【児 童 生 徒 指 導】

- ・ キャリア教育の充実「夢実現プロジェクト」
- ・ 道徳的実践力の醸成・向上
- ・ 道徳の時間の充実
- ・ 豊かな心を育てる読書活動の推進
- ・ 認め合い支え合う集団づくりを通じた人権教育の推進
- ・ 福祉・ボランティア活動の推進

- ・ 潤いのある教育環境づくりの推進
- ・ 基本的な生活習慣を身に付けさせる指導の充実
- ・ インターネットやメールの正しい利用法指導と問題の未然防止
- ・ 生徒の良さを見とり、自己肯定感を高める指導の充実
- ・ いじめ等の問題行動の未然防止
- ・ 校内美化意識の高揚と清掃の意欲的实践

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ 部活動の充実・推進
- ・ 体力の向上を目指す姿勢、態度の育成
- ・ 発達段階に応じた薬物乱用防止、性に関する指導の充実
- ・ 感染症予防と健康管理能力の育成
- ・ 安全教育の充実・徹底
- ・ 食に関する指導と望ましい食習慣の推進

【特色ある学校づくり】

- ・ 心をたがやす「花いっぱいプロジェクト」の実施
- ・ 鬼怒川・地域等清掃活動「町も心もぴかぴか活動」
- ・ 地区体育祭への補助員としてのボランティア活動参加
- ・ 通学路清掃、学区内公園清掃（ニューフリースダムボランティア）
- ・ 生き方を考えさせるキャリア教育
- ・ 「人生の先輩の生き方に学ぶ講演会」「ドリームデザイン教室」

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです」 →生徒肯定回答 85%以上	① 学校行事などを通して、生徒が協力しながら意欲的・主体的に活動でき、達成感や自己肯定感を得られるような場を設定し、それに対する支援を行う。 ② 学級経営や教育相談などを充実させ、不登校傾向の生徒や配慮を要する生徒の支援に配慮しながら、「居がい」のある活気に満ちた学校づくりに努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.5%（昨年度より 5.6 ポイント下回る↓）で、目標を 1.5 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定することで、達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりに取り組む。 ・不登校傾向や不適応傾向の生徒に対して、引き続き支援体制の強化と関係機関との連携を図っていく。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 →生徒肯定回答 85%以上	① 生徒のコミュニケーション力向上を目指し、言語活動の充実に努めるとともに、全職員の授業公開を通して授業力向上に努める。 ② 学習情報システムの「日々の様子」の活用や各部会・主任会等の情報交換などにより、教職員の連携を密にし、個に応じた支援や丁寧な指導を心がける。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.6%（昨年度より 0.5 ポイント上回る↑）で、目標を 9.6 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・「一人一授業」公開において、次年度の「研究テーマ」に焦点を絞って内容を充実させ、更なる授業力向上を目指す。 ・配慮を要する生徒を中心に、会議や学習情報システムの効果的な活用によって情報交換や連携を密にし、より個に応じた支援を行う。

A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 →生徒肯定回答 85%以上	① 授業や集会の開始時間を守らせ、ゆとりをもって生活できるように指導にあたる。 ② 生活安全委員会など生徒会と協力して、中学生にふさわしい身なりを呼びかけさせ、徹底するように指導する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 85.4%（昨年度より 3.6 ポイント下回る↓）で、目標を 0.4 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・学年委員会などと協力し、5分前行動、3分前着席など、時間に余裕を持って行動できるよう働きかけていく。また、教師自らも率先して行動する。 ・生活安全委員会などと協力し、更なる規範意識の育成やマナーの向上を図る。
A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 →生徒肯定回答 85%以上	① 生徒の学習意欲を喚起するとともに、明確な学習課題の提示、個別指導を交えた丁寧な指導などにより、生徒が「分かる・できる」と実感できる授業改善を図る。 ② 学習内容に応じて、習熟度別学習や T・T の授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 86.8%（昨年度より 2.5 ポイント下回る↓）で目標を 1.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ・個に応じたきめ細かな指導を行い、習熟度別学習や T・T など指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 →生徒肯定回答 90%以上	① 日常生活全般において校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談や「イヤな思い調査」（いじめ関係調査）を活用し、いじめへの即時対応や早期発見・未然防止に努める。 ③ いじめゼロ強調月間と関連して学級活動での話し合い活動の推進や生徒会によるいじめ根絶運動を実施する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.6%（昨年度より 0.3 ポイント上回る↑）で、目標を 5.6 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・全校集会、学年集会、また学級活動を通して、「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識をもたせる指導をしていく。 ・道徳の時間を通して、相手の立場や個性を否定する「いじめ」を絶対に許さないという態度育てる。 ・いじめ根絶集会などの生徒の自治的な活動を支援し、いじめが許されない行為であることへの更なる意識の高揚に努める。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 →教職員肯定回答 90%以上	① 各会議や部会、主任会等の連絡を密にし、円滑な教育課程の実施に努める。 ② 行事实施後の成果と課題を必ず記録に残し、次年度の計画に適切に生かせるようにする。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%（昨年度より 1.6 ポイント上回る↑）で、目標を 10 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・諸会議を効率的に運営し、共通理解や学年間の連携を深め、教育課程の円滑かつ適切な実施に努める。 ・行事ごとの成果と課題を振り返り、記録に残し、次年度の計画に適切に生かしていく。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 →保護者肯定回答 85%以上	① 各種便りを積極的に発行するとともに、ホームページの更新を随時行い、学校の取組や生徒の様子などを保護者、地域に発信する。 ② 授業参観を計画的に実施するとともに、学校行事に保護者や地域の方々が数多く来校するよう工夫し、学習の成果や生活の様子を公開する機会を増やす。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 95.4%（昨年度より 1.0 ポイント下回る↓）で、目標を 10.4 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今年度、閲覧者が急増したホームページについて、継続的に内容の充実と更新に努め、年間を通して保護者や地域へ情報を発信していく。 ・授業参観を計画的に行うとともに、学校行事に保護者や地域の方々が数多く来校するよう工夫し、学習の成果や生活の様子を公開する機会を増やしていく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 →保護者肯定回答 80%以上	① 地域協議会等による人材の発掘や地域人材・学生ボランティアの効果的な活動を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。 ② 生徒が地域や中学校区の小学校で活動できる機会を増やすなどして、地域と積極的に交流活動を行うことで、より一層の連携を図る。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 93.5%（昨年度より 1.6 ポイント上回る↑）で、目標を 13.5 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・引き続き、地域人材や学生ボランティアを効果的に活用した学習支援活動を充実させていく。 ・地域協議会との連携・協力により、小学校や地域と連携した取組を推進する。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」 →教職員肯定回答 80%以上	① 生徒会広報委員会・美化委員会を中心に、教室や廊下の掲示物の点検・補修、緑化活動に力を入れ、気持ちよく生活するための環境づくりに努めさせる。 ② 生徒一人一人が自分の役割を自覚して清掃活動に取り組めるように支援し、美化コンクールなどを通して美化意識を高めていく。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、73.4%（昨年度より 0.4 ポイント下回る↓）目標を 6.6 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・学習環境を整えるための掲示物の定期的な整備や、情操教育の観点から緑化活動の推進に努める。 ・生徒が積極的に清掃に取り組むように、美化コンクールや清掃マニュアル等工夫を図り具体的に指導する。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 →教職員肯定回答 80%以上	① 分科会代表者会議及び運営委員会で組織及び計画、重点課題や具体策の確認などを話し合う。 ② 活用期における「重点化を図る指導内容」について、小中の情報交換を十分に行い、具体的な指導を積み重ねていく。 ③ 乗り入れ授業の綿密な打ち合わせにより、小中協働の意識や小中一貫教育への参画意識が高まる。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 93.8%（昨年度より 2.0 ポイント上回る↑）で、目標を 13.8 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今年度の各分科会や教科部会の反省や課題を必ず引き継ぎ、次年度に生かしていく。 ・今年度同様に継続する取組と規模を縮小して継続する取組を明確にし、小中学校ともに負担のない方法を工夫していく。

教育活動の状況	A11	SCやMS、SSWなどの多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケートの「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」 →教職員肯定回答80%以上	① SCやMSと連携するようコーディネーターやSCMが積極的に情報を交換する。 ② 市教委いきいきグループや子ども家庭課と情報を共有し、生徒一人一人の掌握に努める。また、地域協議会によるボランティアを活用することで業務の縮減を図る。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は53.1%で目標を26.9ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・働き方改革を進めるために有効な時間活用を図る。チームで対応するためにケース会議にSCやMSも参加して対策を検討する。 ・市教委・外部機関との調整は、副校長を中心に連携を図り、生徒一人一人の成長に寄り添っていく。
	A12	教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケートの「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」 →教職員肯定回答80%以上	① 一人一業種の職員と管理職が連携を図り、滞りがないようにする。 ② 地域学校園内で定期的に会議を開き、情報を共有する等連携する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は78.1%で、目標を1.9ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・事務職、食育、司書、保健担当等地域学校園内で定期的に会議を開き情報の共有をする。 ・校内においても副校長を中心に情報の共有化を図り、保護者にも各便り等で協力を依頼する。
	B1	教職員は、イヤな思い調査や教育相談などを定期的を実施し、生徒の悩みに適切に対応している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、イヤな思い調査や教育相談などを通して、生徒の悩みに適切に対応してくれる。」 →生徒肯定回答90%以上	① 日常生活全般において校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談や「イヤな思い調査」（いじめ関係調査）を活用し、いじめへの即時対応や早期発見・未然防止に努める。 ② いじめゼロ強調月間と関連して学級活動での話し合い活動の推進を実施する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は91.5%で、目標を1.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・イヤな思い調査（いじめアンケート）を年6回実施し、生徒の悩みの把握、対応に努める。 ・校内生徒指導・いじめ防止推進委員会を中心に、いじめの未然防止に向けたさまざまな取組を充実させる。
	A13	生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」 →生徒肯定回答90%以上	① 教職員の登校指導や下校指導、生徒会やPTA、地域学校園の「あいさつ運動」を通してあいさつの励行を図る。 ② 教師から積極的にあいさつを励行し、気持ちよく過ごせる生活環境の確立に努める。 ③ 学校生活のあらゆる場面であいさつや返事をする習慣を身に付けさせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.4%（昨年度より0.3ポイント上回る↑）で、目標を5.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・地域学校園のあいさつ推進の取組を小中で連携し、あいさつ運動の一層の充実や定着を目指す。 ・あいさつと返事がすべての集団活動の基本であることに気づかせ、学校生活のあらゆる場面での習慣化を目指す。

健康・体力	A14 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 →保護者肯定回答 80%以上	① 目上の人に対する言葉遣いや礼儀などを、学校生活の様々な場面で教えていく。 ② 学校行事やあいさつ運動、地域の方々とは話する機会を通し、正しい言葉遣いの実践を行わせる。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 85.5%（昨年度より 0.2 ポイント下回る↓）で、目標を 5.5 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・「陽東地域学校園の約束」をもとに、小中で連携して、正しい言葉遣いを身に付けさせるよう指導していく。 ・家庭や地域と連携し、正しい言葉遣いや礼儀作法に触れられる機会を増やしていく。
	A15 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 →生徒肯定回答 80%以上	① 昼休みや部活動等の時間や機会に、積極的な運動を推進する。 ② 学年や学級等による体力づくりを積極的に取り入れる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的意見 89.0%（昨年より 1.3 ポイント下回る↓）目標を 9.0 ポイント上回った。 ・教職員の肯定的意見 96.9%，生徒との認識に大きなギャップがある。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、部活動を積極的に推進し、体力の向上を目指す。 ・運動の重要性を再認識させ、教具等の充実を図ったうえで、生徒への声掛けを積極的に行っていく。
	A16 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、好き嫌いなく給食を食べている」 →教職員肯定回答 80%以上	① 日常の給食指導による食育を充実させる。また、セレクト給食・バイキング給食・お弁当の日を通して、食生活を見直す機会とする。 ② 献立を工夫する。 ③ 陽東地域学校園「お弁当の日」「食育だより」を実施し、食への関心を高める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 79.7%（昨年度より 3.9. ポイント下回る↓）目標を 0.3 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・放送や掲示物を活用し、日常の給食指導の充実を図る。 ・季節を生かした献立の工夫をする。 ・栄養教諭による授業を取り入れ、食育指導の充実を図る。
	B2 生徒は、身の回りを清潔にし、給食後の歯みがきを必ずしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は給食後の歯みがきをいつもしている」 →生徒肯定回答 80%以上	① 広報活動や生徒会保健委員会での取組を積極的に行う。 ② 陽東地域学校園「給食後の歯みがき」の取組を習慣化させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答 98.6%。（昨年よりも 2.1 ポイント上回る↑）目標を 18.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・給食後の歯みがき活動や歯の染め出しを行うことにより、効果的な歯のみがき方の習得と習慣化を図っていく。 ・生徒会保健委員会の取り組みを生かしながら、身の回りの清潔を推奨していく。

学 習 等	A17 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 →生徒肯定回答 85%以上 全体アンケートの「生徒は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」 →教職員肯定回答 75%以上	① 言語活動を充実させ、生徒が「意見を出し合い、共に考え合う場」を設定するなど、伝え合う力を育成するような学び合いの場を工夫する。 ② 明確な学習目標の提示や生徒の考えを引き出す発問を工夫し、自分の考えを言える授業の雰囲気づくりに努める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 90.9%（昨年度より 1 ポイント下回る↓）で目標を 5.9%、教職員の肯定回答は 96.9%（昨年度より 8.4 ポイント上回る↑）で目標を 21.9%と、どちらも上回った。 【次年度の方針】 ・主体的に考え表現できる言語活動を充実させ、生徒が「意見を出し合い、共に考え合う」学び合いの場を設定し、積極的な学習態度を育む。 ・生徒の考えを引き出し、深める発問や板書を工夫し、生徒が自分の思いや考えを自由に言える授業の雰囲気づくりに努める。
	A18 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 →教職員肯定回答 80%以上	① 学習課題を明確にし、課題の与え方や授業形態の工夫・改善を図り、生徒が落ち着いて取り組む授業を実践する。 ② 生徒の気付きやつぶやきを認め、生徒が達成感を味わえる場を工夫する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 96.9%（昨年度より 1.8 ポイント上回る↑）で目標を 16.8%上回った。 【次年度の方針】 ・地域学校園の「学習の約束」を掲示するとともに、学びの基本となる学習の心構えなど、学習規律を繰り返し指導することで、落ち着いて学習に臨む態度を身に付けさせる。 ・生徒の気付きやつぶやきを認め、生徒が達成感を味わえる場を工夫する。
	A19 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケートの「ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。」 →保護者肯定回答 75%以上	① 学校だよりやPTA広報誌「陽東のまど」などを通じて、活動の様子や成果を広く知らせるようにする。 ② 地域や保護者に協力を呼びかけるとともに、活動の実際や実績について広く知らせるようにする。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 77.6%（昨年度より 2.9 ポイント上回る↑）で、目標を 2.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・美化委員会を中心とした「花いっぱいプロジェクト」を通して、奉仕する心や生命を大切にする活動を考えさせる。 ・地域清掃活動である「町も心もびかびか活動」に保護者や方々と協力して行うとともに、ボランティア活動について、各種たよりやホームページへ積極的に掲載する。

	B3 生徒は、朝の読書の時間において進んで読書を行い、読書の幅を広げている。 【数値指標】 全体アンケートの「朝の読書の時間において進んで読書をするなど読書の幅を広げることができた。」 →生徒肯定回答 85%以上 →教職員肯定回答 85%以上	① 共に読書を行い、生徒が良い本と出合う機会としての読書活動を充実させる。 ② 地域ボランティアの協力による本の読み聞かせを行い、読書への関心を高める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 96.6%で（昨年度より 1.3 ポイント上回る↑）、教職員の肯定回答は 100%で目標をどちらも大きく上回った。 【次年度の方針】 ・学級担任は生徒と共に読書を行い、生徒が良い本と出合う機会としての読書活動を充実させる。 ・地域ボランティアの協力による本の読み聞かせを全学級で行い、読書への関心を高める。
本校の特色・課題等	B4 教職員は、定期的に登校指導や下校指導を行い、交通事故防止に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、定期的に交通指導や登校指導を行い、交通事故防止に努めている。」 →教職員肯定回答 85%以上	① 年度初めの計画通りに、通学路において立哨指導をする。地域学校園とも連携を図る。 ② 学校行事の後集会を開き、全生徒に注意を喚起する。また学級においても「自分の命は自分で守る。」指導を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.9%で、目標を 11.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、小中で連携して計画的な登校指導、一斉下校時の下校指導、部活動終了時刻前後の立哨指導をする。 ・全校集会、学年集会等で、交通事故防止について話す機会を設ける。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・平成29年度と比較できる教職員、保護者、地域住民及び生徒の全アンケート72項目中、42項目で昨年度の肯定的割合が上回った。同様に、市と比較できる教職員、保護者、地域住民及び生徒の全アンケート68項目中、53項目で市の平均を上回った。

【学校運営の状況】

- ・学校からの情報の発信や提供については、昨年度に引き続き、ホームページの迅速な更新と内容の充実に努めたことによりアクセス数が急増し、保護者からの肯定的回答においても昨年度同様、高い評価を得ている。
- ・来年度は、体育祭や文化祭等の学校行事における来校者の増加と学年行事の説明会の際には、授業参観の実施を推進していく。（学校運営）
- ・家庭・地域との連携については、地域協議会や地域学校園との連携・協力はもとより、地域人材や学生ボランティアを活用した学習支援活動の充実などもあり、保護者からの肯定的回答は昨年度より上昇している。小学校であいさつ運動を行ったり、地域行事のボランティアとして地区体育祭等に参加したりする活動もかなり定着してきている。また、緊急事態発生時に備えた防災訓練「HUG シミュレーション」にも積極的に参加するなど活動の幅を広げている。（学校運営）
- ・今後も主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を目指し、全教職員の授業を公開し、授業力の向上に努める。（学習）
- ・生徒のきまりやマナーの遵守に関しては、教職員や保護者、生徒の肯定的割合はいずれも昨年度を下回ったものの市平均よりは教職員、保護者ともに上回った。日頃の生活や校外での様子を振り返ってみると、生徒の規範意識やマナーは身に付いていると考える。（生活）
- ・生徒会主催による「いじめ根絶集会」の開催やいじめゼロ強調月間における様々な取組を通して、生徒たちの「いじめは絶対に許されない行為」という意識の高揚を図ることができた。（生活）

【教育活動の状況】

- 小中一貫教育・地域学校園の取組については、昨年度までの成果を基に各分科会・教科部会ともに充実しており、教職員の肯定的回答割合が高かった。来年度以降は、地域学校園や児童生徒の実態に応じて、持続可能な実施内容等を明確にしながら小・中学校の連携の下、より効果的・実践的な取組や研修を推進していく。（学校運営）
- 生徒の運動に対する意識は高まっている。弱点の補強に主眼を置いた体力の向上を目指しながら、より運動や体を動かす活動の習慣化を図っていく。（健康体力）

- ・給食の全体的な残量は少ない。生徒が栄養バランスやきちんと食べることへの関心が高まるよう、今後もこれまでの活動を継続していく。(健康体力)
- ・生徒の考えを引き出す発問や板書を工夫し、自分の思いや考えを自由に発言できる授業の雰囲気づくりに努める。(学習)
- ・考えを深めさせるために一人一人に声かけをするなど、机間指導の充実を図る。(学習)
- ・落ち着いた態度で学習に臨めるよう、授業のルールなど学習規律を徹底的に指導していく。(学習)
- ・昨年度同様、時と場に応じたあいさつに関して、教職員、保護者、生徒のすべてにおいて肯定的割合が大きく上昇した。生徒会執行部や生活安全委員会によるあいさつ運動、教職員による登下校指導やPTA活動における声かけなど、組織的・継続的な取組の成果が現れてきた。(生活)

【本校の特色・課題等】

- ・教職員の「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。」の肯定的割合が昨年度に引き続き低かった。日常の清掃はもとより教室環境の整理整頓、掲示物の整理や美化活動に取り組んでいく。また、生徒会活動を中心とした「心をたがやす花いっぱいプロジェクト」のより一層の推進を図っていく。
- 給食後の歯みがきについては、定着してきており、歯科保健に関する意識が高いと感じる。今後はみがく際の安全面の確保とともに「みがいている」から「みがけている」を目指し指導の充実を図る。(健康体力)

6 学校関係者評価

- ・ホームページが充実している。いじめの取組についても肯定的な割合が上昇しており、ホームページをはじめ、様々な手段で保護者や地域に発信していくことは大切である。
- ・挨拶は家庭が基本、そしてコミュニケーションをとる上で欠かせないツール、親が手本を示す地域にしていきたい。
- ・校舎内での挨拶は元気があつてとても良い。その反面、校外での挨拶は何かと制限があるなど難しい世の中だが、顔なじみになることで挨拶の励行ができればと考えている。
- ・家庭科ミシンボランティアにおいて、生徒が指示をしっかりと受け止め、真剣に実習に取り組む姿が見られ、無理なく支援することができた。
- ・地域ですれ違う際、道をゆずってくれる場面が多く、とても気分が良かった。
- ・ボランティア活動では、地域の一員としての自覚ある行動が見られるなど、その積極的な姿勢は小学生にとって良きモデルであり刺激となっている。
- ・マネジメントの数値データにおいては、上がった下がったことにこだわることなく、やるべきことをしっかりとやり続け、子供たちの健全育成や地域の活性化に努めていくことが何より重要である。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・昨年同様、地域貢献ボランティア活動への参加や生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定することで、達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりに取り組む。
 - ・学習において「主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善」のテーマの下、知識・技能が効果的に活用、発揮される場面や言語活動の工夫改善等に向け、引き続き指導していく。
- 小中連携の取組として、地域学校園でのあいさつを強化し、より一層の充実にも努める。また、新たに発達段階に応じた話し方や聞き方における「学習の3つの約束」を掲示し、基本的な学習態度の定着に努める。
- ・「ステップアップ学習」での学生ボランティア、「家庭科ミシンボランティア」「読み聞かせ」での地域の方々のボランティア等多くの活動に地域の力を取り入れる取組が定着してきた。引き続き、地域人材や学生ボランティアを効果的に活用した学習支援活動を充実させ、地域とともにある学校づくりを目指していく。
 - ・不登校傾向や不適応傾向の生徒に対して引き続き支援体制の強化と関係機関との連携を図っていく。
 - ・全教職員の共通理解、情報共有及び行動連携の下、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見に努める。特に、いじめ根絶集会における生徒の自主的な活動を支援し、「いじめは絶対に許されない行為」であることを生徒たちの心に訴え続けるなど、繰り返し指導していきたい。
 - ・授業参観を計画的に行うとともに、学校行事に保護者や地域の方々が数多く来校するように工夫し、今後とも学習の成果や生活の様子を学校だよりやホームページ等で積極的に発信していく。